

金の卵



仁井帆花(包末) 大島拓斗(蔵福寺島) 常石裕也(金地) 山中初音(堀ノ内) 中尾亜結美(福船) 坂本奈津希(金地)

小学校は楽しいな！
この春、岩村から6人の子供達が日章小学校に入学しました。将来の岩村を担う金の卵です。地域で子供達の健やかな成長を支え、見守って行きましょう。

5月27日(土) 10時に日章小の新入生全員が保護者と一緒に岩村ふれあいセンターに集まってくれました。皆で仲良くゲームをして遊んだりして楽しく過ごしました。普段は中々地元の子供達と一緒に遊べないそうです。「時々、公民館に集まって話合う場が欲しいね！」との声が保護者から聞かれました。これを機会に是非公民館を交流の場に活用して欲しいですね。

岩村の歴史

シリーズ (I)

地名の由来

岩村の歴史は古く、平安時代(一二〇〇年ほど前)には、既に石村(いわむら)郷として、和名抄に記録されている。地名の由来は、石群れ(いわむれ)から来ているといわれる。現在、物部川は山田神母木の辺りから、確かな堤防に守られて、ほぼ直線的に南へ流れ、吉川西岸で太平洋へと流れ

でている。しかし、堤防の無い昔は、大雨の度に氾濫した川は自由に流れを変えていた。現在、圃場整備が進み、あまり高いところの低いところが無くなったが整備前は、北東方向から、ほぼ南西方向に向けて、幾筋もの物部川の旧流と見られる、一段と低く曲がりくねった田圃があちこちに見られたものである。

水田も無い大昔には、岩村全域がまるで川原のような、石(いわ?岩)がゴロゴロと群れをなした土地であった。その「石(いわ?岩)群れ」が「岩村」に転訛したものである。

だから、「岩村」の「村」は市、町、村の村ではなく「群」から来ている。南国市になって後しばらくの間、岩村という村が市になったのだからと、「村」を取っ払って、岩地区、岩農協、岩公民館等と呼んでいた時代があったが、それは誤りであった。



たつて浜改田の方から海に流れていた。次第に砂が砂丘を作り、東へ東へと流れを変えながら香長平野を作っていた。

大埴の漢字はどんな辞書にもパソコンにもないが、元字は埴(そね)である。この字の意味は、石のガラガラした瘦せた地という事で、この辺りも岩村と同じような、石だらけの川原であったことがわかる。

また、戸板島や、蔵福寺島等の地名は、物部川の中に浮かぶ島であったことによる地名である。古代の石村郷には、既に堀内、蔵福、経田、福田、金地、包末、松本、徳松、神通寺、の九



邑があったと記録にある。中世の長宗我部時代は、岩村郷地検町帳には、福田ノ西村、蔵福寺島村、長渕村、光本村、堀内村、福田村、田井、城村、岩村城村、経田村、大政所村、神通寺北代村、松本村、神通寺島村、沢見村、野川村、行正村、西村の村、金地村、武近ノ村、見舞田村、包地村、包地芝村、芝村、神願寺村、包地土る村、北野村、北野包末村、包末村、包末南村、仏力橋村、岩村室力内村の三十七村が記録されている。以下次号

藤本眞事さん 寄稿